

2016年7月26日

日本全国の学友の皆様へ

私の存じ上げない方々にもこの趣旨説明が届くことを願い、まずは自己紹介をさせていただきます。私は高木直之、87-88年の国際親善奨学生で、縁あって日本各地区の学友会の連合体・日本ロータリー学友会の代表幹事を務めております。現職は東京海洋大学（魚くんで有名?）の教授で、かながわ湘南ロータリークラブの会員です。

我々はみな人生のある時期、奨学生あるいは GSE の団員として、ロータリーのお世話になりました。ロータリーのおかげで現在があるという学友は、私一人ではないはず。ロータリー財団 100 周年にあたり、せめてもの御恩返しにと企画したのが今回のシンポジウムです。国際人道支援の第一線で活躍する財団学友を世界からお呼びし、日本のロータリアンの浄財が、教育的プログラムを通じてどれほど人類に貢献しているかを、ロータリアンにも、そして一般の方々にも、知っていただくことが第一の目標です。

当日は、ジョン・F・ジャーム RI 会長より、日本から二人目の国際親善奨学生であった元国連難民高等弁務官・緒方貞子博士に、100 周年を記念した特別な「人道奉仕賞」が授与され、UNDP、UNHCR、FAO、JVC などの国際機関・NPO に勤め、海外の第一線で人道奉仕活動にあたる学友の生の声を聴くことができます。前日の学友会総会では、シンポジウム参加の皆様にもおいいただき、同じ学友同士、懇親を深めていただこうと考えています。（帰国直後ということもあり、おいいただけない可能性もあります。）

遠方にお住まいで、シンポジウムに足を運べない皆様におかれましては、是非、「100 周年に 100 分の 1 の恩返し」キャンペーンにご協力ください。ロータリーは近年、その公共イメージの向上に努めており、今回のシンポジウムの内容を全国紙に掲載し、広く一般の皆様にもロータリーの活動を知っていただく計画ですが、それには資金が足りないのです。奨学金（当時の円建てでお願いします!）の 100 分の 1 を目安に、一口 5000 でご寄付願えれば幸いです。

87 年に留学した際に私を受け入れてくれたアメリカ・ニューハンプシャー州のロータリークラブは、自分たちの懐から寄付をするのではなく、空き缶を集めたり、バラの花を売ったりという、いわゆる **fund raiser** をたくさん行って、奉仕活動に充てていました。多くのロータリアンが楽しそうに汗を流す姿を見て、私は自分の留学がこのような人々の善意に支えられていることを知りました。確かに我々の留学や海外研修は、各地区のロータリアンのロータリー財団への寄付によって可能になったものですが、この寄付行為を支えていたのもまた、ロータリアン一人ひとりの善意です。我々学友はみな、人種や宗教、国境の壁を越え、あまねく人間に備わった善意に助けられたのです。学友一人ひとりが、善意に善意で報いていけば、この世界は必ずよりよいものにできるはず。今回のシンポジウムに限らず、財団の次の 100 年に向け、ロータリーとロータリー財団の活動に、皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

日本ロータリー学友会代表幹事
高木直之